ごみの分別から始める脱炭素

■進行する地球温暖化

二酸化炭素（CO_2）などの温室効果ガスは、熱を逃がさない性質があります。

大気中のCO_2が増えすぎて、地球にたくさんの熱が閉じ込められ、地球全体がまさに温室のようになっている状態が地球温暖化です。

地球温暖化により、環境が少しずつ変化し、様々な異変が起こります。

このまま何もしなければ、100年後の気候は…

滝のように降る雨
2倍以上増加

平均気温4℃以上上昇
猛暑日が27日増加

■体感する気候変動 ～厳しい横浜の夏～

横浜の2024年の7月、8月の月平均気温は、過去最高となり、猛暑日も過去最高の22日を記録しました。

また、2024年の夏（6月～8月）の日本の平均気温は、平年と比べて1.76度高くなり、全国的にも、2023年と並んで、最も暑い夏となりました。

※真夏日…最高気温が30度以上の日
※猛暑日…最高気温が35度以上の日
※熱帯夜…夕方から翌日の朝までの最低気温が25度以上になる夜

	1993年	2003年	2013年	2023年	2024年
真夏日	18日	35日	56日	84日	81日
猛暑日	0日	0日	4日	9日	22日
熱帯夜	1日	10日	31日	63日	63日

■ごみの分別が脱炭素につながります

ごみを分別し、燃やすごみの量を減らすことは、貴重な資源を守るだけでなく、ごみの焼却によるCO_2排出量を削減することにもつながります。皆様の日々の分別行動は、地球の未来を守ることにもつながっています。

ごみ焼却のCO_2カット!

プラごみを分別して、
リサイクル

分別以外にも！

横浜はGO GREEN！
環境にやさしい行動を、できることから始めましょう！

横浜市では、2050年の脱炭素社会の実現に向け、市と市民・事業者の皆様が一丸となって脱炭素・環境施策を推進するためのスローガン「YOKOHAMA GO GREEN」を掲げ、「環境にやさしい行動」を推進しています。

私たち一人ひとりが、CO_2排出量を減らすため、ごみの分別以外にも、日常の小さな場面で、環境にやさしい行動を実践することが重要です。

暮らしの中の少しの工夫で、できることから始めませんか。

「YOKOHAMA GO GREEN」
ロゴマーク

電気のCO_2カット!

照明をLEDに

電気のCO_2カット!

エアコンの温度
冷やしすぎない・
暖めすぎない

移動のCO_2カット!

徒歩や自転車で
でかけてみよう

イラスト出典：「脱炭素なくらしのきほん」（横浜市）

ヨコハマ プラ5.3計画を進めています

脱炭素社会の実現に向け、プラスチックごみに重点をおいた「ヨコハマ プラ5.3計画」(2023～2030年度)を策定し、取組を進めています。

■目標

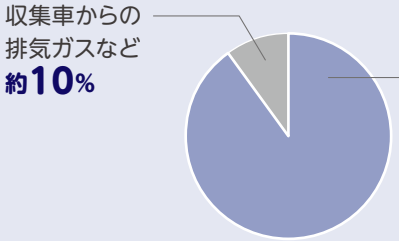
燃やすごみに含まれるプラスチックごみの量を2030年度までに2万トン削減

1人あたり年間
5.3kg削減
(2022年度比)

■なぜプラスチックごみの削減が目標なの?

ごみ処理の際に排出されるCO_2の約9割が、プラスチックなどの石油由来のごみの焼却によるものです。そのため、「ヨコハマ プラ5.3計画」では、プラスチックごみの削減を重点としています。

〈横浜市のごみ処理に伴い発生するCO_2の内訳〉



■5.3kg削減に向けて今日からできる取組をはじめよう!

「ヨコハマ プラ5.3計画」に込められた思い

プラスチックごみの2万トン削減の目標達成には、市民1人あたりで換算すると5.3kg削減していく必要があることから、名称に「5.3」を含めています。

「5.3」は「ごみ」と読み、市民・事業者・行政がプラスチックごみ削減に向けて協働してくことを目指しています。

ヨコハマ プラ5.3